

CentOS 6.9 の設定 CEM コントローラ

目次

[概要](#)

[背景説明](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[Oracle Java SE ランタイム環境 8 のインストール手順](#)

[CEM コントローラをダウンロードし、インストールします](#)

[CEM サーバ Cloud のためのステップ。](#)

[前提の CEM サーバのためのステップ。](#)

[インストールします認証「cem keypair.key」](#)

[コントローラ サービスの開始](#)

[オプションのステップ。開始ファイアウォール ポート](#)

[トラブルシューティング](#)

この資料に CentOS 6.9 で EnergyWise をインストールし設定する方法を記述されています

イスラエル共和国モレノによって貢献される、Cisco TAC エンジニア。

背景説明

Cisco EnergyWise 管理 (CEM) コントローラはネットワーク内の直接デバイス通信を、デバイスおよびアセット インポート、電源測定単位およびポリシー制御担当します。各管理配備は CEM サーバに接続される最低 1 人のコントローラを必要とします。より大きい配備に大規模なネットワークのための同じ位置で一般的に異なるサイトか場所を渡って配置される複数のコントローラまた更に複数のコントローラがあります。コントローラは Windows および Linux 両方ボックスでインストールすることができます。

前提条件

要件

- CentOS 6.9 ボックスの管理者権限のルートアクセスかユーザ。
- インストールされる CEM サーバ。資格情報およびインストールの間に作成されたキーペアファイルは必要です。
- Wget および CentOS システムでインストールされる netcat ユーティリティ パッケージ。次のコマンドを使用してそれらをインストールできます: yum インストール wget NC
- Oracle Java SE ランタイム環境 8。RPM は[ここ](#)に見つけることができます。

使用するコンポーネント

- CEM サーバ 5.2.0 は Windows サーバ 2008 R2 仮想マシンでインストールしました。
- CentOS 6.9 最小インストール仮想マシン。

Oracle Java SE ランタイム環境 8 のインストール手順

- CentOS VM に JRE RPM をコピーして下さい; RPM がそれで直接ダウンロードされた場合このステップをスキップして下さい。
- JRE :

```
yum install /<path> jre-8u<x>-linux-x<64/86>.rpm
```

RPM :

```
rpm -ivh /<path> jre-8u<x>-linux-x<64/86>.rpm
```

CEM コントローラをダウンロードし、インストールします

- [Download ページ CEM](#) からの CentOS 6 のためのダウンロード Cisco エネルギー管理コントローラ 5.2.0

利用可能な 32ビットおよび 64 ビット バージョンがあります:

Cisco Energy Management Controller 5.2.0 for CentOS 6 (64-bit) EnergyWise-Controller-5.2-47736.el6.x86_64.rpm	Linux 64-bit	11-Jul-2016	52.8 MB	Download
Cisco Energy Management Controller 5.2.0 for CentOS 6 (32-bit) EnergyWise-Controller-5.2-47736.el6.i686.rpm	Linux 32-bit	11-Jul-2016	52.4 MB	Download

- CentOS システムへのログイン。
- ダウンロードされたファイルが含まれているフォルダへのナビゲート。たとえばコントローラ インストーレーション ファイルがダウンロード フォルダにあり、フォルダー構造が /home/admin/Downloads、次のコマンドを入力して下さい:

```
cd /home/admin/Downloads
```

- コントローラをインストールする次のいずれかのコマンドを入力して下さい:

```
yum install EnergyWise-Controller-<version>.rpm
```

```
rpm -ivh EnergyWise-Controller-<version>.rpm
```

コントローラ パッケージは /var/lib/ewcontroller フォルダに得られ、インストールされています。このフォルダは 2 つの異なるテンプレート、1 および前提の CEM サーバのための CEM サーバ Cloud のための 1 が含まれています。

次のステップはによって CEM サーバのどの型が使用されているか異なります。

CEM サーバ Cloud のためのステップ。

- 次のコマンドを入力する *init.sample* テンプレートをコピーして下さい:

```
cp /var/lib/ewcontroller/ewcontroller.init.sample /var/lib/ewcontroller/ewcontroller.init
```

- 次の行が含まれている優先する テキストエディタを使用する *init* ファイルを編集して下さい、:

```
ctrllogdir=""
clouddomain=""
cloudpassword=""
javapath=""
```

各行のための説明は下記のように示されています:

- 、デフォルトパス `/var/log/ewcontroller` が適用すれば `ctrllogdir=` 「ログ directory」の <Local パス」はこの行空のままにすることができます。
- `clouddomain=` は」 「この行認証ドメインを CEM サーバ Cloud アカウントに関連付けられて保持します。空である場合もありません。
- `cloudpassword=` は」 「この行以前のコンフィギュレーション行で使用されるドメインのための対応したパスワードを保持します。
- Java がインストールされている `javapath=`」 「ローカルパス

これはこの例かのためのののように `ewcontroller.init` ファイル見えどのようになります:

```
ctrllogdir=""
clouddomain="taclab.com"
cloudpassword="TaCLabPassW0rd"
javapath="/usr/java/jre1.8.0_131/bin/"
```

必要に応じて行を調節して下さい。

前提の CEM サーバのためのステップ。

- 次のコマンドを入力する `onpremise.init.sample` テンプレートをコピーして下さい:

```
cp /var/lib/ewcontroller/ewcontroller.onpremise.init.sample
/var/lib/ewcontroller/ewcontroller.init
```

- 次の行が含まれている優先するテキストエディタを開き、`init` ファイルを編集して下さい、:

```
ctrllogdir=""
mqip=""
mqusername=""
mqpassword=""
mqport=""
javapath=""
```

各行のための説明は下記のように示されています:

- 、デフォルトパス `/var/log/ewcontroller` が適用すれば `ctrllogdir=` 「ログ directory」の <Local パス」はこの行空のままにすることができます。
- `mqip=` "メッセージ Queue" の <IP」 CEM サーバIP か FQDN。
- `mqport=` "メッセージ Queue" の <Port 数」 CEM サーバポート。デフォルトポートは 5672 です。
- `mqusername=` "CEM サーバインストールの間に設定されるメッセージ Queue" の <Username」 ユーザ名。
- `mqpassword=` "メッセージ Queue" の <Password」 は前の行で入力されたユーザ名にパスワード関連付けた。また CEM サーバインストールの間に設定されて。
- Java がインストールされている `javapath=` ""ローカルパス。

これはこの例かのためのののように `ewcontroller.init` ファイル見えどのようになります:

```
ctrllogdir=""
mqip="192.168.10.10"
mqusername="admin"
mqpassword="AdminPassword"
```

mport="5672"

javapath="/usr/java/jre1.8.0_131/bin/"

ここから、ステップは CEM 両方サーバ Cloud および前提の CEM サーバのため同じです。

インストールします認証「cem_keypair.key」

ファイル cem_keypair.key は CEM サーバインストールの間に生成されます。また、それは CEM サーバ Cloud が使用される場合提供する必要があります。ファイル内容はこれに類似したに検知します:

-----RSA プライベートキーを始めて下さい-----

```
MIIIEvgIBADANBgkqhkiG9w0BAQEFAASCBAKgwggSkAgEAAoIBAQDqvQg2LXJcJ+uhK3U+jnUJio
C+
Sf7FU0qurJ9+FNSW0IsfN6Ebk8IbZsO3ysCPTcnpdXak4HSUAA5CCyQCVslomYka4vYrsw/uGyc
S
4oolatHBcah7whFTxQSkxCeBbglDhbpwWTGgMcOwwCyEhRHdOyLqP/5aMfBrGblRN2vt+mYM
KRMX
Mg4fqOGtnhAssTrLWvS9L8Mg+UdeL1KumDbXLUBIpnxLulP4H14K2tQr73oBp7cKI+KHMv27JcJ
b
gtKj8P3LgZvOYITWmy2k36smZ/bMdqDIF7v04rhW6uKQW7HzcBS2sXeG/eL2SQvU0SkYBbCw8
1R9
ho5nrjstYLCrAgMBAAECggEBAOECpG1ycO3fomGSy8dUPOIRbsl5GotCBROdCyGLjCAXQVyc
MZ/C
qk0j27ZA1wZG9aYg38K6GWWJDCHllhLb6CKpEiDAsGJBOaLvSiwzFUdstrlMZgmDhKJ896+NC6
Vo
ud6MwKNTDFvXeBLkk4fQGsirGBPdlc4VkrTHKrmsW3v4NX8aKZ68oB99aHNLL2JLNljgOQRYxa
dP
xUy+0u6Jvt0bdTzqxPbMEWjLcbii1cv493xengmlHHfb+Lv0z9yEGXh64X+JKtzfMwXZ3ccAfgBU
F1dn3/dUI5zlXzulPNTAYgsH6sqZhqaz82VTHwefjsnKIHCC/htMyl1w6nyUfkCgYEA92qY44m9
n4RsjgznomXJoM1fDAvH+Q5xdWUIGtVOwhN+10sYQijNXpbO1zQyqKAFVEO7JA2lXYiNx+15eX
RB
FChSeAxw0HOcrHEHkr9i0Wk2gHZtD+tCOCM/vzrpNbK0X/YMIVQUfDfoLeVZKzEEz6MK0KUkz
Zn
/lfo4H9gSh8CgYEA8uHWLRysEtoEogd+2rSqlC04TEC226GrdEbVHw34g/LdfyDB/01IV+ltNHgB
zsMVetgjfPfu7FjFmsSEpbY0kcXeoazY6IVGSrodr1yy3qJI/007NG9kRNIS579tEZNgeDbu6DGE
i72BeQzz8OSIPSi5nKvrwfJVMNQezjrAH/UCgYEA5HjsXFoq4C5iLD7gfAewzKw5lB8g9+2NelH/
IKrbwr5MCDXRxe7dzvZGZVZPXyX/xdOR8fyj+Z6Lbs9VulFRQ3MEzNT4LJZGXLS3WhNIBoc5D
CHQ
Dr459SsfZ43BcQPkYNfE5PGGvVRlvdopu8EKg5bjy2L9XoAEQkwdwYn+ehMCgYB3ET9t3iB9HW
Qo
CoSlsvsuD5h1i1BU0A6QH86Oh8akHUFXYm9HrQP5N8kWbCJLBnbxnxGqbg4JUy6Epz0n94ImF
sL
5zBvsF5FQ/hJf6gwfF5MxWeAzRrapa9+7NkLRLSGOmfbkGIOH1jZfwAXI/9pfA2CQMXSznn09ggk
EakeAQKBgHUUWxiupruFehGnMri+Fv/Dy4CQMU2sPjcnqMamVEpB6fDdleew7VcgAPSH1CvyspX
iB
G/oh3wLBfhCu+h2ewbG+o6ZvcgUDg4QUjzCu5o2C1kDcPwyn8rHRjs5MSKj1ZITphQpPilFGjqpT
ugqVTG3dVz33V/2aqXFd8vkBDG4O
```

-----END RSA プライベートキー-----

-----公開キーを始めて下さい-----

```
MIIIBlJANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEAA6r0INi1yXCfroSt1Po51CYqAvkn+xVN
K
rQyffhTUljiLHzehG5PCG2bDt8rAj03J6XV2pOB0IAAOQgskAlbJaJmJGuL2K7MP7hsnEuKKCGkx
```

```
wXGoe8IRU8UEpMQngW4JQ4W6cFkxoDHDsMAshIUR3Tsi6j/+WjHwaxm5UTdr7fpmDCkTFzIO
H6jh
rZ4QLLE6y1r0vS/DIPIHXi9Srpg21y1AZaZ8S7pT+B9eCtrUK+96Aae3CiPihzL9uyXCW4LSo/D9
y4GbzmlJU1pstpN+rJmf2zHagyBe79OK4VurikFux83AUtrF3hv3i9kkL1NEpGAWwsPNUfYaOZ647
LWCwqwIDAQAB
-----END 公開キー-----
```

証明書ファイルをインストールするための 2 つの有効な オプションがあります。最初の 1 つは `/var/lib/ewcontroller/cem_keypair.key` に実際の `cem_keypair.key` ファイルを置いています。コマンドはこれに類似したに検知します:

```
mv /<path>/<filename> /var/lib/ewcontroller/cem_keypair.key
```

第 2 つは `/var/lib/ewcontroller/cem_keypair.key` ファイルを作成し、コンテンツを貼り付け、保存するのにテキストエディタを使用することです。

コントローラ サービスの開始

コントローラ サービスを開始するために次のコマンドを実行して下さい:

```
/etc/init.d/ewcontroller start
```

注: この `ewcontroller` スクリプトはディレクトリ `/var/lib/ewcontroller/` の `.firstboot` ファイルを探します。存在するこのファイルが `setting.json` ファイルに `ewcontroller.init` からそれ設定をインポートすれば。このプロセスが、実行された後 `ewcontroller.init` および `.firstboot` ファイルは両方取除されます。コントローラの間違った SSL 認証か間違ったタイプが設定されれば (すなわち。前提で vs Cloud)、それから `settings.json` は削除し、`.firstboot` は同じディレクトリの中で再度作成する必要があります。設定が訂正されれば、再実行 `/etc/init.d/ewcontroller` 開始する。

サービスが再起動した後、コントローラはセントラルサーバとのサービスを登録します。コントローラが不明な ホスト 例外 エラーから開始し損う場合 `/etc/hosts/` にあるホストファイルを編集し、次の行を含んで下さい: ホスト名がコントローラがインストールされているシステムの名前であるところ `127.0.0.1` ホスト名 `hostname.domain`。

オプションのステップ。開始ファイアウォール ポート

CentOS ボックスが不正な発信接続 (それ可能性が高いそこにはないブロックする) をローカルファイアウォールを実行すれば、ポート 5672 の発信 TCPトラフィックを許可することは必要です。するためにそう次のコマンドを実行して下さい:

```
iptables -A OUTPUT -p tcp -dport 5672 -m comment --comment 'ALLOWING_CEM-SERVER_CONNECTION' -j ACCEPT
```

トラブルシューティング

前の手順に続いた後、コントローラは CEM サーバ Webインターフェイスでそれ自身を示す必要があります。どの問題でも出て来る場合、検知すべき 3 つのファイルがあります。それらのファイルは次のとおりです:

- `/var/lib/ewcontroller/controller.stderr`
- `/var/lib/ewcontroller/controller.stdout`

- */var/log/ewcontroller/controller.log*